





# 平和 暮らしの文化はもともとボーダーレスだった 戦後60年、紛争絶えない世界を文化でつなく

第二次大戦の終結から60年がたとうというのに、世界各地で紛争が絶えない。互いの陣営が自分を正義とし、他方を悪と決めつける対立の連鎖。日本でもキナ臭い言説が珍しくなくなってきた。世界はますます摩擦の度合いを深めていくのか。じつは人々がもっと柔軟に交流し、個性を發揮しながらお互いの文化を受容してきた経緯を、人類は豊富に持っているのだが――。

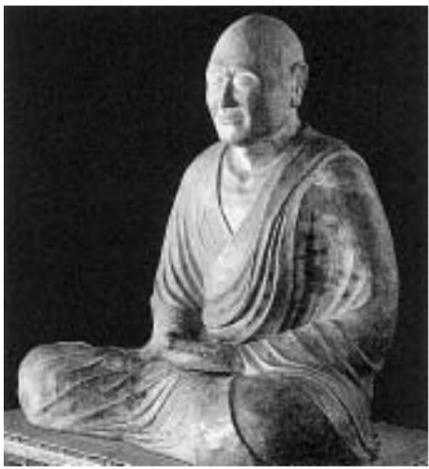
## 声高な「文明の衝突」論に惑わされずに

米英を中心とする多国籍軍がイラク戦争を開始したのが2003年3月19日。その直前、緊迫が最高潮に達していたころ、明治大学教授(比較文学)の張競氏が、『週刊文春』(2004年3月4日号)で、イラク侵略を推進するアメリカネオコンの思想的バックボーンとなっているハンチントン「文明の衝突」論を痛烈に批判していた。

「文明の衝突」論を痛烈に批判していた。それぞれの文明は互いに別個のものであり、衝突は避けられないとする「文明の衝突」論はまったくのデマゴギーである。古来、世界の諸文化は交流と受容を繰り返しながらそれぞれに

## 「政冷経熱」を越えて、数千年の交流から日中関係を創造する

『天翔るシンボルたち』の1冊。中国文化を取り扱った本はたくさんあるが、



鑑真和上坐像

この全集は日中の文化交流を描き、アジアの未来を考えるために、多様な生活文化をユニークな角度で紹介している。「政冷経熱」などと言われ、決してよい話ばかりではない日中関係だが、百年、千年にわたる平和を築くには、一時の政治情勢や経済的つながりだけに左右されてはダメだ。そんなことを思い出させてくれる。

『おん目の掬ぬぐはばや 鑑真和上新伝』(王勇者)では、日中交流のシンボルとも言える鑑真の生き様

を、中国側の史料をもとに描く。命を賭けて、失明しながらも渡日した鑑真の思いを支えたのは何か。東アジア全域の平和を願った鑑真の願いが浮き彫りになった。東インド会社などが、中国の陶磁器職人を日本に移住させたことが、現在の伊万里焼のルーツとなった。戦争に翻弄されながらも、名もなき人々の日常に、見られたのではないだろうか。ベトナムなど各地で独自の生涯を過ごす。



色絵東洋風人物図瓶(マイセン)

## 食卓から見た戦争と平和

冒頭に引いた張競氏の『世界の食文化 中国』(周達生著)が高く評価された。この全集「世界の食文化」には、戦争と平和について考えさせられる話が多い。



第一次世界大戦末期、買い出しに行かされるドイツの子どもたち(『世界の食文化』⑩ドイツ)より)

「ナチスの組織したさまざまな婦人団体が、『ドイツの料理』をスローガンに宣伝をおこなっていた」「例をあげると、『日曜の鍋料理』というキャンペーンがある。これは一月に一回、日曜日の昼食を、通常の肉料理ではなく質素なアイントプフ(鍋料理)にして、その節約した金を寄付しようという運動で、(中略)『愛国的』『ドイツ的』などといった傾向が強調された」

それが敗戦を経て、いまやドイツの食事情は国際化



ナチスの婦人団体が編集した食べられる野草ガイド

「1950年代、60年代のドイツは、程度の差はあれヨーロッパの中で卓越した地位を求め、他民族に優越する孤立した存在として自らを規定しようとしていた。ナチズムの狂気と敗戦による総崩壊をへて、この時期があった。それは、第二次世界大戦の時だった。戦時中、鉄やアルミが軍需用の一員として、あるいは調理して食べるようになったのである。そして政府は野菜の供給不足を補うために、各家庭に「勝利の菜園」をつくることを奨励した。

「勝利の菜園」でつくった野菜を食べることが愛国的義務だということ、国民は競ってそれまでの芝生や花壇だったところに野菜を植えた。戦時中に消費された野菜の四〇パーセントがここで収穫されたものだった。

しかし戦後、再び缶詰・加工食品が庶民の生活に戻ってきた。アメリカの家庭料理は崩壊したという。描くのは、食生活という日常のレベルで共生的な文化の水脈が流れている姿だ。アメリカはいまやファーストフード帝国という面もあるが、一部には、持続可能な農業を目指して地域に根ざした食育を追求する動きがあるという。プッシュは再選してしまっただが、アメリカ文化の重層的な底力に期待したくなる。

## 図説 中国文化百華 第1期

全20巻・既刊8巻 A5判、60種の動物達の生態と生活上製、平均208頁●各3200円

002天翔るシンボルたち 幻想動物の文化誌 張競著 一角獣、聖鳥、龍と民衆の文化に深く分け入り、圧倒的な幻想動物に託した形異能の幻想動物に託した古代人の文化的メッセージを解説。

003おん目の掬ぬぐはばや 鑑真和上 新伝 王勇者 命がけの渡日に駆り立てたものとは? その知られる情熱と当時の中国仏教界の実相を描き出す。

004イネが語る日本と中国 交流の大河五〇〇年 佐藤洋一郎著 最新のDNA鑑定と現地調査による斬新なイネ起源・伝播論が描き出す、複雑な日中交流の軌跡と未来。

005しじまに生きる野生動物たち 東アジアの自然 今泉忠明著 写真多数で紹介する中国の動物と人との博物誌。凍土から熱帯林まで「海のシルクロード」から



# ふるさとカ 「ここで生きる」ことに誇りと自信を取り戻す ニッポンの暮らしの温故知新

## ふるさとへの誇りと愛着

### 「日本農書全集」に見るふるさと創生物語

江戸時代の人々はみなふん人びとが農を中心にしてふるさとをもちつた。



もみすりりと唐箕選 (『日本農書全集』②『絵農書 二』より)

「日本農書全集」は、そのわがふるさとをつくりあげていく物語である。だから収録した300余の文書は地域別に編成され、北海道から沖縄まですべての道府県が網羅されている。

「写真ものがたり 昭和の暮らし・全5巻」は、日一丸となって米の増産に励み、山村では屈強な山男が木馬道で材木を運び、漁村全集に次ぎのような書評を寄せている。

## 貧しいから夢と誇りがあつた 高度成長が吹き飛ばした日本の原風景

「写真ものがたり 昭和の暮らし・全5巻」は、日一丸となって米の増産に励み、山村では屈強な山男が木馬道で材木を運び、漁村全集に次ぎのような書評を寄せている。



漁村の家並み (新潟県能生町、昭和32年、撮影・室川右京)

か、その「進歩」の見返りに数多くのものを見捨ててきた。経済的に効率の悪い自然相手の仕事や職人技術、体を動かしてつくる自給的暮らし、生産性の上がらぬ山村や島の暮らし、助け合いながら暮らす地域の絆、人にとって益にならぬ野生の生き物、恵みや神に感謝し祈る行事や芸能……。現在、その「進歩」は「情報化の時代」の到来によりグローバル化し、地球全体を席巻しようとしている。「進歩」するのは脚光を浴び目に見えやすいが、その陰で退歩していくものは目に見えにくい。本写真全集が、見捨ててきたものの生中にある、いつの世でも生かされていくべきで変わらぬ大切なものを見定めるよう求めることを祈りたい。

## 写真ものがたり 昭和の暮らし

全5巻 民俗学写真家 須藤功著、A・B判・上製、各240頁①農村②山村③漁村と島(続刊)④都市と町⑤川と湖沼、4月完結予定●各5250円、揃価26250円

## 新しい「ふるさと」を創る知恵を紡ぐ 暮らしと環境の百の知恵

「よく森を残すとか自然を残すとかいうけれど、僕にとっては森や自然より『古い時代のもの』という感じがする。親の代からのものを残すと自然に森がたふん昔の人と一緒に何かを残していることなのかなあと思っ」

「今の時代って、みんなプロジェクトに提供したこと、土地の所有権は分配されたに代々の緑が残ったという経験をした鈴木さん言葉。」

「高気密住宅がつくれなかつた昔の村は「依存型共生」であり、近代住宅は「自立型孤立」だった。これから現代の建築技術を生かして「自立型共生」が可能なのだというのが著者の主張で、これは「昔に帰れ」式のノスタルジーではなく、自分も地域もトクをする新

しい共同性を創り出す発想なのだ。本書を含む「百の知恵双書」は、そんな新しい「ふるさと」を創り出すための知恵が詰まったシリーズだ。他にも、新しい「地域」を再生するワークショップの手法をもっと暮らしに「当たり前」にするための手引き「参加するまちづくり」(伊藤雅春・大久保洋著)や、その土地に生きた先人の知恵と技術を綿密に検証した「棚田の謎」(田村善次郎・T.E.M.研究所著)など、未来を生かすための糧となる暮らし方を教えてくれる。

001 棚田の謎 田村善次郎 著 伊藤雅春・大久保洋 監修

002 住宅は骨と皮とマシカ 著 伊藤雅春・大久保洋 監修

003 目からウロコの日常物観 奥村昭雄著 木の良さと美しさを人と触れ合う「かたち」に生かす、無垢材の生地仕上げ、建築家の家具作り40年の軌跡。

004 時が刻むかたち 奥村昭雄著 夢の動き、茨城の仕掛け。風土に合った屋

005 参加するまちづくり 伊藤雅春・大久保洋 監修

006 洋裁の時代 小泉和子著 洋裁の腕が支えた戦後の家計と女の自立。和から洋へ変化した服装・下着の巨大で静かな文化革命。

007 樹から生まれる家具 奥村昭雄著 木の良さと美しさを人と触れ合う「かたち」に生かす、無垢材の生地仕上げ、建築家の家具作り40年の軌跡。

008 まちに森をつくらせて住む 甲斐徹郎・チームネット著



「よく森を残すとか自然を残すとかいうけれど、僕にとっては森や自然より『古い時代のもの』という感じがする。親の代からのものを残すと自然に森がたふん昔の人と一緒に何かを残していることなのかなあと思っ」

「今の時代って、みんなプロジェクトに提供したこと、土地の所有権は分配されたに代々の緑が残ったという経験をした鈴木さん言葉。」

「高気密住宅がつくれなかつた昔の村は「依存型共生」であり、近代住宅は「自立型孤立」だった。これから現代の建築技術を生かして「自立型共生」が可能なのだというのが著者の主張で、これは「昔に帰れ」式のノスタルジーではなく、自分も地域もトクをする新

しい共同性を創り出す発想なのだ。本書を含む「百の知恵双書」は、そんな新しい「ふるさと」を創り出すための知恵が詰まったシリーズだ。他にも、新しい「地域」を再生するワークショップの手法をもっと暮らしに「当たり前」にするための手引き「参加するまちづくり」(伊藤雅春・大久保洋著)や、その土地に生きた先人の知恵と技術を綿密に検証した「棚田の謎」(田村善次郎・T.E.M.研究所著)など、未来を生かすための糧となる暮らし方を教えてくれる。

001 棚田の謎 田村善次郎 著 伊藤雅春・大久保洋 監修

002 住宅は骨と皮とマシカ 著 伊藤雅春・大久保洋 監修

003 目からウロコの日常物観 奥村昭雄著 木の良さと美しさを人と触れ合う「かたち」に生かす、無垢材の生地仕上げ、建築家の家具作り40年の軌跡。

004 時が刻むかたち 奥村昭雄著 夢の動き、茨城の仕掛け。風土に合った屋

005 参加するまちづくり 伊藤雅春・大久保洋 監修

006 洋裁の時代 小泉和子著 洋裁の腕が支えた戦後の家計と女の自立。和から洋へ変化した服装・下着の巨大で静かな文化革命。

007 樹から生まれる家具 奥村昭雄著 木の良さと美しさを人と触れ合う「かたち」に生かす、無垢材の生地仕上げ、建築家の家具作り40年の軌跡。

008 まちに森をつくらせて住む 甲斐徹郎・チームネット著

1970年の大阪万博



1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博



# 食文化

## 健在！世界のローカルフード

### 「変わるもの」と「変わらないもの」のダイナミズム

#### グローバル時代にこそローカルフードを見直す 「世界の食文化」

地域風土に根ざしながら、味わい深く、都内のあちこちで外食の需要が伸びている。書店では、この全集を地味に、外の世界とつながり、図・ガイドコーナーにも置いて好評だ。食育や食にまつわる仕事に携わっている人なら、料理の背景にある伝統や変化を知ることに大切になってくる。だが、どこに、生活文化の現地体験の豊富な著者はなかなかたつた。全まな研究や学習にも貴重なローカル時代だからこそ見直したい文化の多様性と柔軟さを描き出す。

食文化を知ることは国際交流の第一歩だし、海外旅行もただのグルメ情報だけを頼りにするより、グンと

#### ●東南アジア4カ国食べ比べ 「ベトナム・カンボジア・ラオス・ミャンマー」 (森枝卓士著)

タイ以外のインドシナ半島諸国の差異と共通性があり、食ひとつをとっても、ベトナムのフォーもカンボジアのクオックも、ミャンマーのモウニャンも、ラオスのモトモチも、それぞれに濃淡がある。著者は中国やインドの影響もそれぞれに濃淡がある。著者はカンボジア料理がこの地域の食文化の原初の形態に近いのではないかと推測する。小麦粉でできた中華麺に小麥粉でできた中華麺にラオスはモチ米を蒸して開いていることがわかる。

#### ●交易国家だからこそ自分の味にこだわる？ 「タイ」 (山田均著)

本書では、タイ料理の現在に迫る手法として、バンコクで出身も社会階層も異なる老若男女12人に食生活の聞き取り調査をしている。教師や公務員からホステスまで多彩だが、顕著なのは貧富の差というよりは出自の違い。中国系が、北部出身か、南部出身か、食生活の差異を大きく分ける。そのあり方なのかも知れない。だけ固有の食文化の敷居

#### 文化の交差点には おなじみの料理の原型が 「トルコ」 (鈴木董著)

中央アジアに興ったトルコ民族は、アジアとヨーロッパの接点となるアナトリア半島に定着し、ビザンツ帝国の伝統、パルカン半島のギリシア文化とアラブ文化を融合させることで、イスラムにも西洋にも受け入れられやすい食文化をつくってきた。私たちがおなじみの食品の原型が、トルコに発見できる。たとえば、食通サヴァランの名を冠した菓子



ラオスの朝のマーケット売り。フランスパンが土着化している。

#### セネガルの代表的料理「チエブ・ジェン」。トマト味の破砕米に煮込んだ魚と野菜をのせて供される



#### ●「アフリカ」 食事とは呑むこと？ (小川了著)

著者はアフリカの食事の特徴を「主食を噛まずに呑む」と表現している。現地では「ウガリ(東アフリカの固粥)を噛んで食べるのは子どもだけで、大人はそのまま飲み込むものだ」とたしなめられたという。「こはんはしっかり噛んで、ゆつくり食べなさい」としつけられていた日本人からみると、まじかである。

#### 「日常茶飯」の文化力を描き、食文化論の指標となる 「講座 食の文化」

「世界の食文化」が国・地域別である一方、こちらは食を論じるテーマ別に、人類が世界中で蓄積してきた食文化の奥深さと、生活への影響の広さを示す。味

★読者カードより★  
「宗教、思想とも深いところがある」とが分かった。哲学ともいえるかもしれない。(東文化 責任編集・熊倉功夫 京・女性) ③調理とたべもの 責任編集・杉田浩一 ④家庭の食生活 責任編集・山口昌 ⑤食の情報化 責任編集・井上忠司 ⑥食の思想と行動 責任編集・豊川裕 ⑦食のゆくえ 責任編集・田村眞八郎・井上如



#### ●マーク・トウウエインが懐かし がった豊かなアメリカ料理とは 「アメリカ」 (本間千枝子・有賀夏紀著)

「20世紀初めにアメリカ料理の終わりが始まった」と食の歴史家レスリー・ブレンナーは嘆息したが、アメリカの食を駄目にしたのは、ヨーロッパを訪ねたマーク・トウウエインがヨーロッパの食事を言っていた。20年代には、製粉会社が創り出した架空のキャラクター「シエル蟹」がアメリカを通過して、加工食品を使った「家庭料理」を広めた。ベティのレシピを案出していたのは会社で雇った40〜50人の家政学だ。古き良きアメリカ

#### 世界の食文化 全20巻

〔監修〕石毛直道〔編集委員〕大塚滋、榊山紘一、川北稔、熊倉功夫、本間千枝子、南直人/A5判・上製、平均280頁・各3200円、揃価64000円  
〔既刊〕②中国 周達生著  
④ベトナム・カンボジア・ラオス・ミャンマー 森枝卓士著 ⑤タイ 山田均著 ⑦オーストラリア・ニュージーランド 小山修三責任編集 ⑨トルコ 鈴木董著 ⑪アフリカ 本間千枝子・有賀夏紀著 ⑬イタリヤ 池上俊一著 ⑮ドイツ



#### 日本の食品産業

年々成長し、国民経済、貿易において重要度を増す食品産業を、技術、経済、経営構造、企業戦略、政策など、多角的に探求するシリーズ。農政研究センター企画、B5判、上製、箱入り  
1 技術 渡辺篤二編 334頁 10000円  
2 経営・経済 並木正吉編 336頁 10000円  
3 上 戦略・政策 アンケ1ト調査 小倉武一編 264頁 8500円  
3下 戦略・政策 本論 小倉武一編 498頁 12500円

#### 食品産業 欧米編

食品産業研究の先進地、アメリカ、イギリス、フランスの食品製造業、流通、貿易、政策、行政等に関する文献を邦訳。農政研究センター企画、B5判、上製、箱入り  
1 アメリカの食品製造業 小倉武一監修、492頁 6000円  
2 イギリスの食品産業 小倉武一監修、430頁 12000円



# 江戸から見える未来

# 見直される漢方と「未病の学」の水脈

## 農医一体・未病医学・全人医療の先駆 日本漢方の起源・革新・展開を知る全集

### 漢方の真髄は未病にあり

高齢化社会の進展により、心身ともに全体像を把握し、今、漢方が脚光を浴びている。当然である。高齢者の多くは多臓器、多系統に疾患を抱えており、細分化した西洋医学では対応が困難だからである。漢方の特徴は、心と身体は一体であることを前提とし、自然治癒力を高め、身体を整えることを基本としている。

また、漢方には「未病」という概念がある。「上工は未病を治す」と漢方でもっとも尊重される「未病」は、体質改善や病気の予防を重視する漢方の最大・最高の目標である。食生活を高めた自然との健全な関係によって生命力(元氣)を強化し、心と身体を健康



吉益東洞

### 医のポストモダン思想

親試実験を唱え、実験医学の道を開いたとされる吉益東洞と、ほぼ同時代に生きた安藤昌益は、これまでに「日本の国土が生んだ最大思想家にして、世界思想史上にも特筆すべき人物」(狩野亨吉)として、その卓抜な社会思想ばかりが注目されてきた。しかし、彼の生業は医者であり、狩野亨吉による発見以前に昌益の業績を紹介したのは、ほかならぬ漢方医学の巨頭、浅田宗伯であった。

昌益は当時、日本の医家

「黄帝内経」の世界を徹底的に復元しようとした。三陰三陽、五運六気などを、五行説を八行説に改変し、吉益東洞の医学を集成した「第二巻」建殊録、東洞医学の成果、古方医学の理論的確立と実践的検証に つとめた永富独嘯庵の業績を網羅した第三巻「医聖」永富独嘯庵の三巻から成る。この叢書は漢方の真髄である「未病」と、日本漢方の起源・革新・展開の歴史を知るうえで欠くことのできない基本的資料である。

昌益がかたくななまでにこだわった天人合一、天人相関の思想は、近代のヒューマンイズム・人間中心主義、主客分離の合理主義に対するアンチテーゼであった。人間を自然から切り離して特別な存在とし、有機的・全体的な自然をバラバラに分析・分解し、単純化して改造し破壊する。人間にしてみても同様である。人間と環境とを相関し、身心一如、全体として機能する人体をバラバラに切り離して機械・部品としてとらえ、臓器の交換までして。こうした近代科学・近代医学の反自然性・危険性を前近代においてすでに察知し、結果的に

## 「未病」の精神で現代と格闘した三人 人間をまるごととらえて社会の病理まで浮き彫りに

### 衛生とは生命・生活・生産を衛る

#### ●丸山博著作集

丸山衛生学は、医学の基となる世界観、実践のたのめとなること、環境の統計的把握法としての哲学と一分野として。医学の一分野として。衛生学ではない。森永砒素ミルク中毒事件の追跡調査を初めとした実践的研究を、保健婦と養護教諭に大きな影響を与えた。有害食品研究会やアールヴェーダ研究会も組織し、自然食や有機農業を実践・支援する組織が生まれる先駆ともなった。

その丸山の業績をまとめた「丸山博著作集」(全三巻、挿画一〇五〇円)は、贈る丸山衛生学の神髄。第三巻「食生活の基本を問う」の「いのち食なり」。

今日、色褪せることなく示唆に富む。医療・福祉関係者に必要をよりどころとするべきか、地域住民は日々暮らしてどう変えていくべきか。

第一巻「死児をして叫ばし

### ●21世紀をこそ子ども世に 『正木健雄選集 希望の体育学』

各地の紛争で命を落とす少年兵、インド洋大津波で心配される子ども的人身売買。日本でも凶悪犯罪の犠牲者として、さらには加害者として子どもが追いつめられている。

正木は、軍国主義教育の先兵だった体育を子どものための体育に転換するための研究に、発言し、運動を組織してきた。四〇余年にわたる業績から編まれたのが本書である。

NHKで取り上げられて話題となった「背中に、朝からあくび」など子ども

### 叢書 日本漢方の古典

全3巻 栗島行春編訳、復刻・書下し・現代語訳・注 486頁 16800円  
解、B5判、上製、箱入 第3巻 医聖 永富独嘯庵 582頁 18900円  
第1巻 医心方 食養篇 490頁 16800円  
第2巻 建殊録 東洞医学 挿画52500円



### 安藤昌益全集

全21巻(22分冊) 別巻1 安藤昌益研究会編、A5判、上製、箱入  
(現代語訳編) ①~⑦ 稿本 自然真営道⑧~⑫ 統道真伝 ⑬ 刊本自然真営道  
(資料編) ⑭~⑯ 上下 医学関係資料、自然真営道残簡ほか  
(復刻編・影印版) ⑰~⑲ 稿本自然真営道⑳~㉑ 統道真伝  
(別巻) 安藤昌益事典 著作目録、年譜、門人伝記、用語解説、研究史、参考文献、索引、図表による昌益思想の集大成。  
●各4200円~6200円、挿画115500円



### 安藤昌益全集

全3巻、A5判、上製、箱入、各巻CD-ROM付  
●各15000円、挿画45000円  
増補篇一(資料篇四) 良中子神医天真、良中先生自然真営道方 東均・新谷正道編著 翻刻・注・解説 2001年に内藤記念くすり博物館で発見された資料。前者は、焼失した稿本「自然真営道」の医学論や天文論を再現。後者は、昌益の処方集。  
増補篇二(資料篇五上) 安藤昌益事典 真斎漫筆 天・地・人(上) 中村篤彦編著 現代語訳、注・解説 昌益の病証論、処方方を記録・再現した資料。今



### 増補篇

回初めて現代語訳を掲載。付録CD-ROM2電子版 安藤昌益全集・全文テキスト 増補篇三(資料篇五下) 真斎漫筆 天・地・人(下) 中村篤彦編著  
【別冊付録】昌益医学ハンドブック、付録CD-ROM3電子版安藤昌益全集・章句検索篇

### ●「病人の歴史」を描いた戦後社会史研究の金字塔 川上武『戦後日本病人史』

#### ●丸山博著作集

川上武は、「現代日本病療・福祉関係者からは「医療史」(勁草書房、1982年)で初めて、医学史で疾病史でもなく、「病人」の視点から近代日本の歴史「戦後社会史研究の金字塔」(明治から敗戦まで)を総括した。治療現場に立つ医師であり、社会視点を持つ医事評論家でもある川上だからこそできた仕事だった。その続編である「戦後日本病人史」も、すでに医



### 丸山博著作集

全3巻 A5判、上製  
●各3500円  
①死児をして叫ばしめよ 288頁  
②いま改めて衛生を問う 320頁  
③食生活の基本を問う 320頁





# 農業

## プロ農家から園芸愛好家まで、緑化から地域営農ビジョンまで 多様なニーズに応える農業大百科

### 18年ぶりの大改定、いよいよ刊行開始!

## 「原色 病害虫百科 第2版」

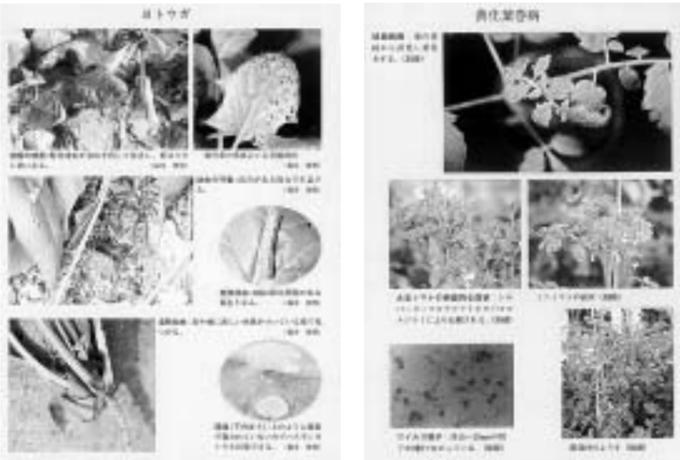
病害虫防除や農薬の使い方が大きく変わる中で、待望されていた、農文協の「農業百科シリーズ」の一つ「原色 病害虫百科」の「第2版」の刊行がスタートする。

### プロ農家から園芸愛好家の相談相手として

「原色 病害虫百科」全13巻は18年前の1987年刊行されたが、当時、プロ農家の必携の書として問題になっていた病気の害虫を網羅的に取り上げていた病気の害虫を網羅的に取り上げていた病気の害虫を網羅的に取り上げていた...

### 新規に460病害虫、カラー写真大幅追加、農薬も一新

第2版は、18年間で新たに問題になった病害虫を収録するとともに、改正された「農薬取締法」にも基づいて、全ての品目、病害虫について、新規に収録された作物数...



### 圃場の実態に則した親切的な解説

「診断」というとカラー写真ばかり注目されるが、解説もそれに引けを取らず重要な。カラー写真と解説を組み合わせて、はじめて的確な診断ができるのである。その点でも本百科はよく工夫されている。

現場での発生や防除の経験や、実際に診断・防除ができるという点も大きな特徴である。病害虫の診断・防除の決定版として、便利で利用価値の高い百科であり、幅広い読者に役立つことは間違いない。

## 原色 病害虫百科 第2版

- 全15巻(野菜7巻・作物3巻・果樹5巻) A5判・上製、各4800円750円、収録病害虫1600種、カラー写真6000点
- (野菜病害虫百科)
  - ①トマト・ナス・ピーマン 14000円②キュウリ・ウメ・スモモ・アズキ 13000円③ナス・ピーマン 14000円④キュウリ・ウメ・スモモ・アズキ 13000円⑤ナス・ピーマン 14000円⑥キュウリ・ウメ・スモモ・アズキ 13000円⑦ダイコン・ニンジン 10000円⑧イモ類 13500円
- (作物病害虫百科)
  - ①イネ 13500円②ムギ 13500円③小麦 15500円④チャ・コンニャク 13000円⑤タバコ 13000円



## 農文協の「農業百科シリーズ」のラインナップ

農文協の出版活動の大きな特徴として、世界でも類をみない「農業百科シリーズ」を次々と発行していることが上げられる。しかも、最新研究と実際の経験や現場での問題と結びつけて編集されている。この3月に創立65周年になるというが、一貫して農業、農村にかかわる出版活動をしてきた農文協の真骨頂が発揮されているといえよう。

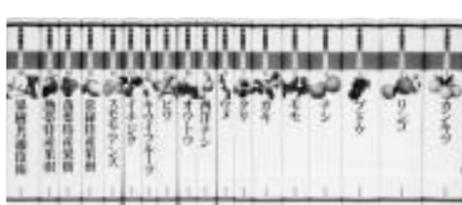
### 野菜園芸大百科 第2版

本百科の大きな特徴は、多様な技術課題に配慮した編集。作業や課題別の編成になっていることである。コン・ウド・フキ・ミョウガ(14)レタス・ミツバ・シソ(15)パセリ(16)ホウレンソウ・シュンギク・セルリー(17)キヤベツ・ハナヤサイ・ブロッコリー(18)ハクサイ・ツケナ(19)チンゲンサイ・タアサイ(20)ネギ・ニラ・ワケギ・リーキ・やぐら性ネギ(21)タマネギ・ニンニク・ラッキョウ・アサツキ・シャロット(22)特産野菜70種(23)品質・鮮度保持(24)養液栽培・液土耕(25)施設・資材・産地形成事例(別巻) 地方野菜大全

### 稲作大百科 第2版

稲作では、基礎・基本に加え、減農薬有機米の技術事例、ミネラル、ケイ酸・味アップ技術、品種の最新情報、機能的、直播栽培の最新技術情報など、直面する課題についても縦横に広げていく。まさに「水田農業ビジョン」実践、「売れるコメづくり」の最高のテキストである。

こうした、課題にズバリ応えるのが本百科。生理・生態、品種の特徴など基礎的なことから、樹勢や樹相診断、低樹高化、さらにはハウス栽培、農家の実際事例まで、樹種ごとにきめ細かく実践的に解説されている。



樹(17)熱帯特産果樹(18)果樹共通技術

### 果樹園芸大百科

高齢化が進んでいる一方で、新規に取り組む人も増えつつあるのが果樹。こうして、低樹高化と成ら



### 花卉園芸大百科

加工・販売を組み合わせた、付加価値の高い農産物を生産し、地域の活性化につなげている事例、オーナメントや観賞用、ピオトープなど水田空間の多様な活用を促している経営やグループ、団体の事例も多彩に取り上げており、「水田農業ビジョン」作成と実践に欠かせないシリーズである。転作物の多様な栽培方法を基礎から実際まで詳しく紹介。



花増用の1・2年草や多年

### 稲学大成

全3巻 単一植物に注がれた研究では日本の稲研究は質量ともに世界一。その成果を海外の研究も含めて、形態、生理、遺伝の分野ごとに集大成。編集代表・松尾孝嶺、BNCCE OF THE RICE PLANT(1) MORPHOLOGY(2) PHYSIOLOGY(3) GENETICS(完全英訳版・SCIENCE INCES 10000円)



### 大石貞男著作集

全5巻 静岡県茶業試験場長を務め、地域や産地に軸足を置いた研究と思索を実践。環境保全、地産地消の流れから未来を見出す茶業の原点。A5判・上製、セット箱入り、培と製造I 3950円、茶の栽培と製造II 9500円、茶の栽培と製造III 4800円、茶の栽培と製造IV 4800円





# 全集は時代の羅針盤

# 農文協全集・百科

# 一覧&注文書

●在庫僅少・品切れのシリーズもございます。価格変更もございます。資料請求、お問合せは農文協までご連絡下さい。ホームページも参考にしてください。（内容は2005年2月現在のものです）

頁	分類	全集名	巻数	定価	申込	解説
3	国際理解	図説中国文化百華	全20巻 既刊8巻	25600		アジアの文化の源流としての中国文化を多角的に掘り起こし、日本と中国の未来を展望する。●刊行中
4	地域環境	百の知恵双書	全20巻 既刊8巻	22400		環境を考慮した家づくりなどの「エコ・アップ術」「地域保全術」「仕事術」など、足元から暮らしと環境を科学する。●刊行中
5	食育の視点	世界の食文化	全20巻 既刊9巻	28800		グローバル化とファーストフードが席巻するいま、世界各地の伝承のローカルフードと民族の文化。●刊行中
6	食の文化	講座食の文化	全7巻	47600		石毛直道監修、味の素食文化センター発行。モノからころへ過去から未来へ学際的研究の集大成。
		日本の食生活全集	全50巻	145000		全国300地点、5000人の話者から「聞き書き」してできた世界最大の食文化データベース。
		CD-ROM版 日本の食生活全集	全1巻	120000		日本の食文化を語る上で欠かせない資料として高い評価を得ている都道府県別編纂・全50巻をCD-ROM化
		聞き書 ふるさとの家庭料理	全20巻別巻1	53000		ガイドブックには出てこないほんとうの郷土料理を料理別・テーマ別に聞き書きとカラー写真で再現
		ビデオ日本の味・伝統食品	全20巻	294000		日本の伝統食品の歴史や庶民や職人が受け継いできた加工と調理法、栄養価まで丹念に映像で追う
7	江戸農書	日本農書全集 第1・2期	全72巻別巻1	435100		風土に根ざした農を営み、子孫のため地域のために貴重な教訓を残した近世文書を現代語訳・注記・解題。
		◆「日本農書全集」第3期（企画）	未定	未定		江戸時代地方（じかた）の文書に地域農政と暮らしの場づくりのヒントを得る全集。書下し・現代語訳。★企画
	江戸文化	明治農書全集	全13巻	70000		江戸から明治へ移る中で農業はどう動いたか。老農と科学者の論争・協力で築かれた農法の原典。
		人づくり風土記	全50巻	225000		江戸時代の個性的で活気溢れる生活文化と産業づくりに21世紀の地域づくりのヒントを探る。東京版・沖縄版にはCD付
近現代史	写真ものがたり昭和の暮らし	全5巻既刊3巻	15750		夢と誇りにあふれて暮らした昭和30年～40年代。その知恵とところを地方写真家の撮った貴重な記録写真でつづる。	
	ビデオ日本 映像の20世紀	全50巻	367500		明治～平成、激動の20世紀を47都道府県ごとに編集。NHKで50回にわたり放送された待望のビデオ化。（特別斡旋販売）	
8	医療思想	安藤昌益全集	全21巻別巻1	115500		安藤昌益研究会編。知の変革者、「エコロジー思想」の開祖。●毎日出版文化賞特別賞 受賞（3巻僅少）
		安藤昌益全集 増補篇	全3巻	45000		医学関係新資料2点を取めた第1巻、現代語訳「真意護筆」を取めた第2・3巻、各巻CD-ROM付。
		叢書／日本漢方の古典	全3巻	52500		カンボウルネッサンス・よみがえる古典の叢書、日本漢方の精華・未病医学の原典を集成。
		丸山博著作集	全3巻	10500		乳児死亡統計や森永砒素ミルク中毒事件の追跡調査など、民衆の側から問いつけてきた著者の全業績を集大成。
		戦後日本病人史	全1巻	12000		被爆者からゲノム革命まで激動の医療・福祉を患者の側から総括し未来を展望。初の通史兼事典。
		希望の体育学	全1巻	7200		正木健雄選集 子どもの心身の危機を鋭くとらえる正木体育学の精髓をまとめた。研究論文36と業績目録。
9	農業事典	環境保全型農業大事典	全2巻	30000		①施肥と土壌管理 ②総合防除・土壌病害対策 持続的な農業の確立に向けた実践的な情報を集大成。●05年3月刊
		畜産環境対策大事典 第2版	全1巻	15000		尿汚水、悪臭などの最新処理技術から売れる堆肥づくりと品質評価、バイオガスなど新利用まで。
		地域生物資源活用大事典	全1巻	20000		地域の活性化、物産づくりに役立つ植物、動物、きのこ・微生物約400種の特性から利用法まで。
		天敵大事典	2分冊	15000		害虫防除に活躍する天敵資材と土着天敵190種の生態や保護・活用・飼育法などを詳細に解説。
		有機廃棄物資源化大事典	全1巻	15750		下水汚泥、焼酎かすやコーヒーかすなどの食品や植物残渣、生ゴミまで堆肥化の方法と実例
技術史	昭和農業技術発達史	全7巻	68000		農業技術の発達と普及の画期に焦点をあて、農業試験研究を今日の視点から百年をレビュー。	
10	防除百科	原色 野菜病害虫百科第2版	全7巻	81500		「改正農業取締法」に合わせて大改訂。収録病害虫1600種、カラー写真6000点。現場第一線の研究者・指導者370名の総力を結集して増補大改訂。被害の様子、診断のポイント、病害虫の生態、発生条件、防除の実際、効果の判定など、実際的に詳しく解説。 ●2005年2月から配本開始、10月完結予定
		原色 作物病害虫百科第2版	全3巻(未刊)	42000		
		原色 果樹病害虫百科第2版	全5巻(未刊)	60500		
10	栽培百科	野菜園芸大百科第2版	全23巻	218000		原産地と日本への来歴、植物としての特性、生育のステージと生理・生態から、品種生態、各作型での基本技術まで。
		果樹園芸大百科	全18巻	150000		果樹の原産地、品種の特徴、栽培の歴史、加工・貯蔵・出荷方法が詳しくわかり、調べ学習やレファレンスに最適。
		花卉園芸大百科	全16巻	185000		原産地・原種からガーデニング・園芸療法まで花の大百科。
		稲作大百科第2版	全5巻	60000		「売れる米づくり」に向けて、14年ぶりに大改訂。有機栽培など、蓄積された技術を総結集。
		転作全書	全4巻	44000		畑と田を自在に変える「農業新時代」がやってきた。水田転作に役立つ技術・経営事例を集大成。
		稲学大成	全3巻	50000		稲研究100年を鳥瞰し国内・外の研究を網羅。形態・生理・遺伝の分野毎に体系的に編成・展開。
		英文／稲学大成	全4巻	139000		「稲学大成全3巻」の全文英訳。「補遺巻 索引」（イネの科学・技術に関する用語約2.5万語収録）付
11	農業問題	大石貞男著作集	全5巻	22300		歴史と地域に根ざした茶業研究の集大成。茶業の原点に立ち戻り未来を読むための視点と技術を示す。
		明治大正農政経済名著集	全24巻	91500		先人のことばは現代に通じるものがある。わが国社会科学の原点をたどることのできる名著を収録。解題付き。
		昭和前期農政経済名著集	全22巻	113000		大恐慌から太平洋戦争期の農業・農村問題について社会科学的に正面からアプローチした著作を広く収録。
		昭和後期農業問題論集	全24巻	94600		戦後に書かれた農業問題に関する論文をテーマごとに選んで収録。解題と主要文献リスト、年表付。
		食糧・農業問題全集	全20巻	70400		食糧・農業を日本の行く末全体に関わる基本問題としてとらえた書き下ろしの全集。（14巻・17巻品切）
		全集 世界の食料・世界の農村	全27巻	86400		現代が直面する人口・食料・資源・環境問題解決への挑戦をグローバルに描く。（10巻・21巻・24巻・26巻品切）
	食品産業	◆全集 世界の再興 農の創造	未定	未定		暮らしをつくる産業＝農業という視点から農と食の新しい姿を提案。★2005年下期より刊行開始予定
		食品産業シリーズ 日本の食品産業	全3巻	41000		食品産業の現状と展望を技術、経営、企業戦略、政策など多角的に探るシリーズ。
	地域活力	食品産業シリーズ 食品産業欧米編	全3巻	30000		イギリス、フランスの食品製造、流通、消費、貿易、政策、行政などの最大文献を邦訳。（1アメリカ品切）
		地域農業活力図鑑	全10巻別巻1	100000		農業と経済の活力得点を算出し、活力・作目・立地から類型区分。地域活性化の豊富なデータ集。
	農経・農政	小倉武一著作集	全14巻	63000		戦後農政の当事者として農政を総括し、政治と農業と人と環境の論評と提言を集大成。（4巻品切）
近藤康男著作集		全13巻別巻1	63500		農業経営学を社会科学として確立。巻頭に自ら解題の筆をとり、問題意識を語る（第1巻品切）	

## 食と農、食育、住、自然など雑誌群

テーマ	雑誌名	年発行数	年間購読料	申込	解説
農業	月刊 現代農業	年12冊	9600		農業の技術、暮らしの知恵、産直・加工・地域づくりの総合実用雑誌。全頁写真はカラー印刷。
地域	増刊 現代農業	年4冊	3600		地元学、帰農の広がり。地域からのニッポン再生の道筋を人びとの生き方を通じて描く。
食文化	V E S T A (ヴェスタ)	年4冊	3000		身近な食の深奥な世界に迫る食文化研究誌。多様なテーマを1名の編集責任者による特集発行。
住文化	住む。	年4冊	4800		自然派のこだわり「住」文化雑誌。住まいと暮らしに関わるさまざまな知恵や工夫、そして住まいの本質を「知ることを愉しむ」。
食育	食文化活動	年2冊	800		地域に根ざす食育活動を特集。2005年度から年4回発行予定。
教育	食農教育	年7冊	5600		「総合的な学習の時間」の総合誌。食を育てることを結ぶ実践交流誌。
	初等理科教育	年12冊	8400		小手先の教育技術ではなく子どもの問題解決能力を育成する授業づくりの理論と実践の探求誌。
	技術教室	年12冊	8640		人と自然の接点―技術と暮らしを考える、技術・家庭科を中心とした教育実践交流誌。
	保健室	年6冊	4800		教室では見落とされがち子どものからだのゆがみをつかむ実践交流誌。
農政	農業教育	年2冊	800		地域の拠点としての農業高校の新しい実践を取り上げる歴史ある情報誌。
運動	21世紀の日本を考える	年4冊	1600		農政の重点施策を「地域活性化」へつなぐ提言と先進事例を紹介。
村落	農村文化運動	年4冊	1600		社会と暮らしのあり方を「農」の視点から問い直す。各種調査・指導報告も貴重。
生物	生物科学	年4冊	5600		専門誌と一般向け科学雑誌をつなぐ総合誌。各種の論議・提案・教育論議も編集。
中国	村研ジャーナル	年2冊	2400		社会・経済・歴史・政治・民俗・心理など他分野との研究交流誌。日本村落研究会編。
	人民中国	年12冊	4800		中国現地編集の日本語雑誌。最新の社会、経済、文化、芸能の話題から連載読み物まで。（特別斡旋販売誌）

住所 〒	—	●通信欄	●取扱書店
電話 ( )	( )		
F A X ( )	( )		
Eメール			
お名前			

**農文協** ●食と農の4大データベース搭載！ <ルーラル電子図書館>会員募集中！: <http://lib.ruralnet.or.jp>  
〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1 ■ 地方事務所  
TEL.03-3585-1141 北海道(札幌)011(271)1471 東北(仙台)022(262)5804 関東(小山)028(27)3407  
FAX.03-3589-1387 甲信越北陸(長野)026(235)3427 東海近畿(名古屋)052(571)3408  
<http://www.ruralnet.or.jp> 中国四国(岡山)086(231)2693 九州沖縄(福岡)092(282)8550 (2004年12月現在 価格は税込み)